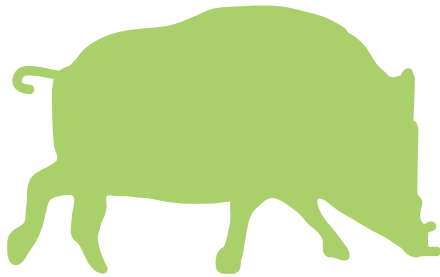


イノシシ・シカをきっかけに 地域づくり!! 島おこし!!

対馬の農林業は、担い手の減少や高齢化による生産力の低下など厳しい状況に直面しています。これにより耕作放棄地の増加や里山の荒廃は進み、イノシシやシカなどの野生動物の生息域拡大や、さらに捕獲者の減少によって個体数が増加しています。その結果、農林業だけでなく、生態系や我々の生活に被害が多数発生するようになりました。

これらイノシシ・シカの対策を通じて、安心・安全な農林業が行えるように、多くの補助事業が行われてきましたが、問題解決には至っていないのが現状です。では、どうすればよいのか？

今回の特集 **前へ ~go ahead~** では、イノシシ・シカの問題解決に向けた活動をきっかけに、対馬の暮らしを持続可能で豊かなものにしようとする一環として、有害鳥獣対策の取り組みを紹介します。



獣害から獣財へ



対馬市はなぜ有害鳥獣対策に取り組んでいるのか！

イノシシやシカによる被害は、農林業や生態系・人身事故にまで及び、対馬市では緊急措置として被害を減らそうと、**防護対策と捕獲対策**に取り組んでいます。

防護対策では、ワイヤーメッシュ柵を積極的に設置しており、総延長約900km（対馬の海岸線延長とほぼ同じ）にも及びます。また、捕獲対策では、箱罠・くくり罠・銃による捕獲が行われており、イノシシとシカ併せて一万頭程度が毎年捕獲されています。平成10年から現在まで約16億円近い事業費を投入していますが、被害は一向に減っていないのが現状です。

この問題を解決するためにも、まずは被害と対策の現状を把握し、今後の戦略を検討することが重要です。そして、現在の農家・ハンター・行政の三者だけの対策から、より多くの地域住民を巻きこんだ対策にするために、肉や革などの資源活用も行い「他人事から自分事」への意識改革を進めています。

①防護柵の調査

自分の畑や集落に設置している防護柵が、どのように設置され、管理できているのかを地図に可視化しました。



職員が地域を歩いて調査したものを、地図に可視化・データ化

②捕獲の状況

罠の地点登録

・有害捕獲のために、現在設置している罠をすべて登録しています。

捕獲の現場確認

・いつ・誰が・どこで・何を・どうやって捕獲したのか、正確な情報を集めています。



地区相談会

自分の集落や畑が、今どのような状態なのか、防護・捕獲の情報を地図で見ながら、その人やその場所に合った対策を一緒に検討します。

有害捕獲で捕られたイノシシ・シカを資源として活用

～地域を巻き込むきっかけづくり～

◆食肉加工所の稼働と大学との連携

美津島町加志で9月から稼働している食肉加工所では、イノシシやシカの加工品開発のため解体が行われています。3月には大阪府立大学と食用としての利用推進を目的とした協定を結び、対馬の新たな産業創出や地域振興を目指します。



◆レザークラフト講座を開始

革は対馬の貴重な資源です。市民の手仕事として産業にできる可能性があります。まずは、クラフトに楽しくチャレンジしてみませんか？



◆厳原中学校1年生が

有害鳥獣対策を考える講座

対馬の将来を支える担い手を育てようと、協働隊員と捕獲者らが講師となり、有害鳥獣の被害や狩猟、資源活用などについて学んでいます。



人をつなげる女性のチカラ



オレンジレディの5人と谷川隊員

イノシシ・シカの対策に取り組む
島おこし協働隊の2期生！
谷川 ももこさん (27歳)



農林・しいたけ課 有害鳥獣対策室
有害鳥獣ビジネスコーディネーター
(獣医師)

イノシシやシカの問題に

取り組むのが私の使命

子どもの頃から「野生生物のお医者さん」になることが夢でした。とある講演会でツシマヤマネコの存在を知り、早速、大学2年の夏には対馬野生生物保護センターで実習を受けたのですがそこで気づいたのは、ヤマネコの保全とともに地域の人たちがイノシシやシカの農作物被害に「番困」していることだったんです。そのまま被害が拡大すると、美しい里山の景色も、古くから続く対馬の暮らしも危ぶまれるのではないかと考え始め、イノシシとシカと人間の間の軋轢を解消するために活動が出来ればと思うようになり、現在に至ります。

イノシシやシカの被害は、一見するとイノシシやシカが一方的に悪いと思われるがちですが、彼らが畑や集落に出てくるのには、そこにエサがあったり、追い払われないなど、人間側にも理由があります。また、天敵のいないイノシシやシカを管理できるのは人間だけだと思っています。少しでも多くの人と、イノシシ・シカをきつかけに対馬の未来を一緒に考え、取り組んでいけるよう、被害対策や資源活用に取り組ませてもらっています。

有害鳥獣対策室に救世主現る？オレンジレディの活躍



「女性はグループ作りが得意だったり、おしゃべりが大好き。良い方法や情報を集めようと思った時、男性に比べ、瞬間に情報が広まり浸透していくんです。その力をこの事業に活かしたいと思い「女性の現場確認員＝“通称”オレンジレディ」の募集を提案しました」と話す谷川さん。男性職員に交じって現在5人の元気な女性が活躍しています。業務の傍ら、すでに皆さん、狩猟免許も取得し、ハンターとしてのデビューもそう遠くないかもしれません。

これまで殆どと言って良いほど女性の関わりの無かった分野でしたが、女性が笑顔で現場を回ることで、ハンターさんの癒やしにもなっているようです。第三者の関わりによる円滑な事業推進や女性の雇用促進にも期待されています。

オレンジレディに聞く

事務を中心に、現場確認やイノシシやシカの食肉解体も行っています。全く未知の分野で経験も無かったのですが、リーダーシップを取るのが女性の谷川さんということで飛び込みました。最初は、畏れにかかったイノシシをとめさしするのも見れず、触れずからのスタートでしたが、市民としてしっかり関わらねばいけない問題ですし、3人の子どもの持つ母親として、対馬の現状を伝え、将来のために頑張っていきたいという気持ちが強くなっていきました。

仕事にも慣れ、すでに20頭近くは解体しました。レーザークラフトや食肉加工の取り組みも期待しています。目下の目標は、オレンジレディの仲間とモデル的な農園を作ること。野菜を育て、防護柵を張り、畑を狙うイノシシを捕獲し、自分たちで捌いて料理するんです。可能性とやり甲斐のある仕事に出会えました！



庄司愛美さん



正しい・かしこい護り方 できていますか？

Q&A

さて、問題です！
なぜイノシシは生活圏に現れるのでしょうか？

- ①イノシシが遊びに来ている
- ②山に棲家がなくなったから
- ③そこ(里)にエサがあるから

答えは③番「そこ(里)にエサがあるから」

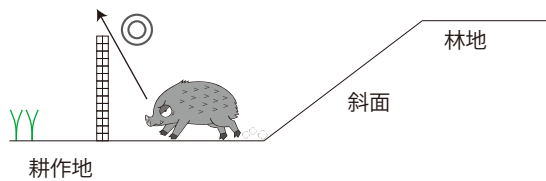


ではイノシシのエサはどれ？



答えは「すべて」
とられてイイものイヤなもの全部
気を付けましょう

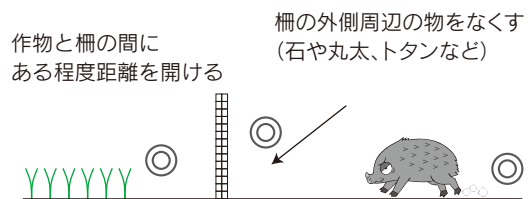
侵入防止柵の設置位置



平坦な場所に柵を設置すると…

- イノシシの目線から柵が高く見える
- 草刈りなどの維持管理が比較的容易

侵入防止柵の周辺管理



草刈りなどを行い、柵周辺の
見通しをよくする

※余分なものを置くと、イノシシはその下にエサがあると思う
ことがあります。

それでも被害が出る時は…

「加害個体」を捕獲することが重要です



よくある市民の声



狩猟免許がないから

四つ足の動物は殺せない

- ・狩猟免許が無くても捕獲に関わることはできます。
- ・捕獲と言っても餌付けや見回りなど役割は分かれています。出来ることから良いのです。

注) 捕獲隊という制度があります。詳しくは有害鳥獣対策室まで

- 農業をしていないから、林業をしていないからと言って他人事と思っていないですか？
- あなたも対馬に住む一人として、できる対策から始めてみませんか？

イノシシの被害で困っている、地域ぐるみで対策に
取り組みたいなど、まずはご相談ください。
各地区へ出向いていきます。

問い合わせ 農林水産部 農林・しいたけ課
有害鳥獣対策室 ☎0920(53)6111

